Document Title

ABCD  
  
株式会社○○○○御中  
  
2012年6月  
  
あずさ監査法人の品質管理システムに関する報告書  
  
会社計算規則第131条に基づく監査役等への報告事項の通知  
  
※本文書は英語原文からの翻訳版であり、日本語原文と異なる場合は日本語原文を優先します。   
  
2019年XX  
  
KPMG AZSA LLC  
  
目次  
  
1. 品質管理システム 1  
  
2. トップのトーン 3  
  
(1) 品質管理とリスク管理に対するリーダーシップ責任 4  
  
3. 適切な顧客との関係 5  
  
(1) 顧客及び業務の受託及び継続 5  
  
(2) 新規顧客及び業務受託プロセス 5  
  
(3) 継続プロセス 6  
  
(4) 撤退 6  
  
(5) 顧客ポートフォリオの管理 6  
  
4. 明確な基準と強力な監査ツール 7  
  
(1) 監査手法 7  
  
(2) 独立性、誠実性、倫理観、及び客観性 9  
  
5. 適格な人材の採用、開発及び配置 13  
  
(1) 採用 14  
  
(2) 人材の開発 14  
  
(3) 包括的多様性計画 14  
  
(4) 品質及びコンプライアンス指標を含めた評価プロセス 15  
  
(5) パートナーの任命 15  
  
(6) プロフェッショナルの配置 15  
  
(7) 社員からのグローバル・ピープル・サーベイ (GPS) 16  
  
6. 技術的優秀性と品質のサービス提供へのコミットメント 17  
  
(1) 終身学習戦略 17  
  
(2) IFRS及び米国GAAP業務に必要なライセンス及び義務 17  
  
(3) スペシャリスト・ネットワークへのアクセス 18  
  
(4) コンサルテーションの文化 18  
  
(5) 事業理解と業界知識の開発 19  
  
7. 効果的かつ効率的な監査の実施 19  
  
(1) 継続的な指導、監督及びレビュー 19  
  
(2) 適時な業務品質管理 (EQC) レビュー 20  
  
(3) 報告 20  
  
(4) 洞察力のある、オープンで正直な双方向のコミュニケーション 21  
  
(5) 前任監査人と後任監査人の間のコミュニケーション 21  
  
(6) 顧客の機密性、情報セキュリティ及びデータプライバシー 21  
  
(7) リスクに関する情報 21  
  
8. 持続的な改善へのコミットメント 22  
  
(1) 内部監査及びコンプライアンスプログラム 22  
  
(2) 外部からのフィードバック及び対話 24  
  
品質管理システム  
  
概要  
  
KPMG AZSAは、金融庁の公認会計士協会によって定められた規則や基準、日本公認会計士協会 (JICPA) の監査基準及び品質管理基準、関連する法規、公認会計士法、会社法、金融商品取引法などの地方法規に基づき、KPMGインターナショナルのポリシー及び手順を採用しています。  
  
高品質なサービスを提供するためには、堅牢で一貫性のある品質管理システムが必要不可欠です。そのため、KPMGインターナショナルは、全てのメンバーファームに適用される品質管理ポリシーを策定しています。これらは、KPMGのグローバル品質・リスク管理マニュアル (Global Q&RM Manual) に含まれており、KPMG全体の人員に対して提供されています。  
  
これらのポリシー及び関連する手順は、関連する専門基準、規制及び法的要件を遵守し、適切な報告を行うことに役立ち、KPMGの人員が誠実で客観的に行動し、勤勉に業務を遂行することを支援するよう設計されています。これらのポリシー及び手順は、国際監査及び保証基準委員会 (IAASB) が発行した国際基準第1号 (ISQC 1) 及び国際会計倫理基準委員会 (IESBA) が発行した公認会計士のための倫理規範に基づいています。これらは、法定監査及びその他の保証及び関連サービスを提供するメンバーファームにとって関連性があります。

KPMG AZSAは、KPMG Internationalのポリシーや手順を実施することが求められており、また、金融庁やJICPA、その他の関連規制機関、および適用される法的および規制要件が発行する規則や基準に対応するために、追加のポリシーや手順を採用しています。リスク管理や品質に関するポリシーの改正は、品質およびリスク管理のアラートに含まれ、メールで通知されます。  
  
KPMG AZSAは、内部監視によって、メールアラートで指定された変更を実施することが求められています。  
  
品質管理およびリスク管理は、すべてのKPMG AZSAの人員の責任です。この責任には、日々の業務において、会社のポリシーと関連手順を理解し、遵守する必要が含まれます。品質管理システムは、KPMGのすべての人員に適用されます。  
  
KPMGの品質管理プロセスの多くは、横断的でアドバイザリー業務にも同様に適用されますが、このセクションの残りの部分は品質監査の提供に焦点を当てています。  
  
監査品質フレームワーク  
  
KPMG AZSAにおいて、監査品質は適切な意見を出すことだけではありません。どのように意見が出されたかが重要です。監査人の報告書の背後にあるプロセス、思考、誠実さに関するものです。品質監査の結果は、関連する専門基準および適用される法的および規制要件に準拠した適切で独立した意見の提供です。  
  
すべての監査専門家が監査品質を提供するために必要な基本的なスキルと行動に集中するために、KPMG Internationalは監査品質フレームワークを開発しました。このフレームワークは、KPMG AZSAを含むすべてのKPMGメンバーファームで採用される共通の言語を使用して、KPMGネットワークが監査品質を促進するために必要とする要素を説明し、各KPMGメンバーファームのすべての監査専門家が監査品質の提供に寄与する方法を強調します。  
  
トップのトーンは、監査品質フレームワークの7つの監査品質ドライバーの核心に位置しており、KPMGネットワーク全体に適切な行動が浸透するようにします。他のドライバーは相互に補完し、それぞれが他のドライバーを補強することを意図しています。7つのドライバーについては、このレポートの後続のセクションで詳しく説明します。  
  
トーン・アット・ザ・トップ  
  
KPMG InternationalおよびKPMGメンバーファームの文化は、適切な態度と行動を促進するための価値観と支援するポリシーとプロセスに基づいています。  
  
グローバルリーダーシップは、地域およびメンバーファームのリーダーシップと協力して、品質と最高水準の専門的優位性に対する取り組みを確立する上で重要な役割を果たしています。監査などのサービスを提供する組織において、ステークホルダーや投資家が依存する必要があるため、品質、誠実さ、倫理に基づく文化が必要です。  
  
KPMG AZSAでは、相談が奨励され、強みとして認識される文化を推進しています。  
  
トーン・アット・ザ・トップは、KPMG AZSAのリーダーシップが品質、倫理、誠実さに対する取り組みを示し、クライアント、ステークホルダー、社会全体にその取り組みを伝えることを意味します。ステークホルダーが期待し、依存するため、誠実さは重要な特徴です。それはまた、KPMGのキーバリューであり、「何よりも誠実に行動する」ということです。誠実さとは、常に最高の専門基準を維持し、健全で質の高いアドバイスを提供し、厳密に独立を維持することを意味します。  
  
KPMGのバリューは、数年にわたって明確に規定されており、KPMG AZSAの労働プラクティスやコンプライアンス文化に組み込まれています。  
  
KPMGのバリューは、文化の基盤となり、トーン・アット・ザ・トップを形成します。また、監査に取り組むKPMGのアプローチの基盤を形成し、私たちが一緒に働く方法を形成します。私たちは、KPMGのバリューを人々に明確に伝え、導入、パフォーマンス開発、報酬に組み込みます。  
  
KPMGグローバル行動規範  
  
KPMGは、品質と誠実さへの取り組みを保証するために、KPMGのバリューに基づいて事業を行っています。KPMGの多様で包括的な文化と、正しい個人および専門的行動へのコミットメントを定義しています。KPMGのバリューは、何よりも誠実に行動し、最高の専門基準を維持し、健全なアドバイスを提供し、独立性を厳密に維持し、法律、規制、専門基準に準拠することを強調しています。KPMGのバリューは、すべての人に明確に伝えられ、メンバーファームの人員プロセス - 就職、パフォーマンス開発、報酬に組み込まれています。  
  
KPMGのバリューを基盤として、KPMGグローバル行動規範が構築されています。  
  
KPMG AZSAを含むメンバーファームは、グローバル行動規範を最低限採用することが求められています。

KPMG AZSAの行動規範は、KPMGの共有信念と原則に基づいており、KPMG AZSAのすべてのパートナーや従業員に対する倫理的行動の期待を明確にしています。また、KPMG AZSAの行動規範は、各パートナーや従業員が、自分たちの職務機能や責任レベルに適用される法的、専門的、倫理的基準を個人的に守る責任があることを強調しています。KPMG AZSAの行動規範は、私たちの取り組みを定めており、要約すると、KPMGの人員が以下を守ることを求めています。  
  
・すべての適用法、規制、専門基準、KPMG AZSAの方針に従うこと  
・適切なクライアントと第三者と協力すること  
・品質に焦点を合わせること  
・KPMG AZSA内で行われる違法または不道徳な行為、クライアントやサプライヤー、または取引する公的機関による違法または不道徳な行為を容認しないこと  
・情報の保護  
・公正に競争すること  
・私たちの人材が非常に優れたものになるのを手助けすること  
・責任ある企業市民であること  
・公の信頼を築くこと  
  
KPMG AZSAの全従業員は、ファームに参加した後、年次の確認を含め、グローバル行動規範とKPMG AZSAの行動規範の両方に従うことが求められます。また、ファームに参加した際と年次定期的に、行動規範に関する定期的なトレーニングを受ける必要があります。  
  
KPMGの価値観に反するものや不快に感じるものを発見した場合、個人は積極的に発言するよう奨励されます。さらに、KPMGのすべての従業員は、KPMGの価値観、KPMGの方針、適用法、規制、専門基準に違反する可能性のある活動を報告する責任があります。  
  
私たちは、従業員が倫理的および品質の問題を報告できる手順と確立されたコミュニケーションチャネルを持っています。善意で発言する個人に対しては報復行為は禁止されています。また、KPMG内部および外部の関係者からの不正リスク（詐欺による重要な誤記述のリスク）に関する情報を含むすべての情報は、関連するエンゲージメントパートナーに伝えられ、その監査対応は本部に報告されます。  
  
さらに、KPMG Internationalホットラインは、KPMG International自体、KPMGのメンバーファーム、またはKPMGのメンバーファームの上級リーダーや従業員に関連する一定の活動に関する懸念を機密で報告するためのメカニズムです。KPMG AZSAでは、グローバル人員調査（GPS）（第5項（7）を参照）を通じて、私たちの人々がKPMGの価値観を実践しているかどうかを定期的に監視しています。  
  
品質とリスク管理に対するリーダーシップ責任  
  
KPMG AZSAは、品質、倫理、誠実さに対するコミットメントを示し、クライアント、ステークホルダー、社会に対する品質に焦点を合わせたアプローチを伝えます。私たちのリーダーシップは、最高水準の専門的卓越性への不断のコミットメントを示し、重要なイニシアチブを支援することによって、品質、誠実さ、倫理に基づく文化の構築に重要な役割を果たしています。  
  
私たちのリーダーシップチームは、品質、誠実さ、倫理に基づく文化を構築することにコミットしており、書面およびビデオコミュニケーション、チームへのプレゼンテーション、個人的な議論を通じて、行動を通じて示しています。   
  
KPMG AZSAの品質とリスク管理に対するリーダーシップ責任は、以下の人々が担当しています。  
  
マネージングパートナー  
  
ISQC1の原則に従い、私たちのマネージングパートナーは、監査対応の中での詐欺リスクに対するKPMG AZSAの品質管理システムの最終責任を負っています。  
  
品質担当エグゼクティブボードメンバー  
  
KPMG AZSAの品質管理システム、リスク管理、コンプライアンスに関する運用上の責任は、品質担当エグゼクティブボードメンバーに委任されており、ファーム全体のプロフェッショナルリスク管理と品質管理の方針を設定し、コンプライアンスを監視する責任があります。  
  
マネージングパートナーと品質担当エグゼクティブボードメンバーは、内部会議やニュースレターを通じて、品質管理システム、行動、および監査品質を優先するメッセージに関する内部方針を伝えます。  
  
エンゲージメントパートナーは、関与する各エンゲージメントの品質とリスク管理に責任を負っています。  
  
適切なクライアントとエンゲージメントの受け入れと継続  
  
監査品質を管理するための鍵の1つは、私たちのクライアントと彼らが直面する問題の性質を理解し、特定されたリスクに対する堅牢な監査対応を構築することです。  
  
私たちは、クライアントが私たちの仕事と評判に関連していることを理解しています。

厳格な顧客およびエンゲージメントの受け入れおよび継続方針とプロセスは、KPMGの評判を保護し、KPMGブランドを支援し、高品質の専門サービスを提供する能力の重要な部分です。したがって、KPMGインターナショナルは、メンバー企業がクライアント関係を受け入れるか、継続するか、またはそのクライアントのために特定のエンゲージメントを実行するかを決定するために実施する必要があるポリシーと手順を設定しています。  
  
見込み顧客およびエンゲージメントの受け入れプロセス  
  
KPMG AZSAは、すべての見込み顧客について評価を行います。これには、見込み顧客、主要な経営陣、重要な実質的所有者に対するバックグラウンドチェックを含み、情報を適切に分析して情報を得るための受け入れ決定を行います。この評価には、クライアントのリスクプロファイルを評価するためのアンケートの完了、クライアント、主要な経営陣、取締役、および所有者に関するバックグラウンド情報の取得も含まれます。また、当社の地元の法的および/または規制要件を満たすために必要な追加情報も取得します。  
  
評価には、評価パートナーに加えて、第2のパートナーが承認を行います。クライアントが「高リスク」と見なされる場合、リスクマネジメントパートナー、場合によっては事務所マネージングパートナー、または品質に責任を持つ執行役員の承認が必要です。  
  
エンゲージメント評価  
  
各見込みエンゲージメントも評価され、エンゲージメントに関連する潜在的なリスクを特定します。エンゲージメントの特定のタイプに固有の要因の他、Sentinel™（KPMGの衝突および独立性確認システム）を使用して潜在的な独立性および利益相反の問題を特定します。監査サービスの場合、クライアントの財務管理チームの能力、エンゲージメントに割り当てられた人員のスキルと経験、および詐欺リスクも含まれます。評価は、他のシニアKPMG AZSAスタッフとの協議を経て行われ、必要に応じて品質およびリスク管理リーダーシップによるレビューも行われます。  
  
初めて監査サービスが提供される場合、見込みエンゲージメントチームは、クライアントに提供された非監査サービスおよびその他の関連するビジネスおよび個人的な関係のレビューを含む、追加の独立性評価手順を実行する必要があります。  
  
クライアントが公益企業になる場合や、クライアントの状況の変更により追加の独立性制限が適用される場合には、同様の独立性評価が実施されます。公益企業である見込みのある監査クライアントの独立性に対する脅威を特定および評価するための特定の手順（詳細については、4.（2）⑦のセクションで詳述）に従います。  
  
見込み顧客およびエンゲージメントの全体的なリスク評価に応じて、特定されたリスクを緩和するために追加のセーフガードが導入される場合があります。潜在的な独立性または利益相反の問題がある場合は、受け入れ前に文書化され、解決する必要があります。  
  
潜在的な顧客またはエンゲージメントが専門基準および当社のポリシーに従って適切に緩和できない場合、見込み顧客またはエンゲージメントは拒否されることになります。  
  
継続プロセス  
  
KPMG AZSAは、すべての監査クライアントを年次再評価します。再評価では、継続的な関連性に関連する問題と、必要な緩和手順が特定されます。  
  
定期的または長期の非監査エンゲージメントも再評価の対象となります。また、顧客またはエンゲージメントのリスクプロファイルに変更がある可能性がある場合には、再評価する必要があります。  
  
撤退  
  
エンゲージメントまたは顧客関係から撤退する必要がある情報を入手した場合、当社内で協議を行い、必要な法的、専門的、および規制上の責任を特定します。また、ガバナンスに責任を持つ者および適切な権限に必要に応じて通知します。  
  
クライアントポートフォリオ管理  
  
当社のリーダーシップは、各エンゲージメントに適切な能力、能力、時間、および権限を持つエンゲージメントパートナーを指名します。  
  
私たちは、各監査パートナーの顧客ポートフォリオを少なくとも年次で個別の討論を通じてレビューします。レビューでは、クライアントポートフォリオ全体の業界、性質、およびリスクを考慮し、パートナーが各クライアントに対して品質の高い監査を提供するための能力、能力、および容量も検討されます。  
  
明確な基準と堅牢な監査ツール  
  
KPMG AZSAのすべての専門家は、独立性ポリシーを含むKPMGインターナショナルおよびKPMG AZSAのポリシーと手順に従うことが期待されています。これらの期待を満たすためのさまざまなツールとガイダンスが提供されています。  
  
監査エンゲージメントに対するポリシーと手順には、会計、監査、倫理、品質管理基準、およびその他の関連する法律および規制要件の関連要件が組み込まれています。  
  
私たちの監査アプローチ

監査に対する私たちのアプローチ  
  
KPMGは、グローバルな電子監査ワークフローを提供するKPMG Claraプラットフォームを通じて、新しい技術を統合することができる、データ、自動化、視覚化を活用した高度な機能を備えたスマートなモジュラー監査プラットフォームを含む、ネットワークの監査能力の進化に大きな投資をしています。データ＆アナリティクス（D＆A）は、KPMGメンバーファームがデジタル時代において監査証拠を取得し、クライアントとやり取りする方法に不可欠なものです。  
  
KPMGの高品質な監査プロセスは、以下を含みます。  
  
・エンゲージメント中にパートナーやマネージャーが適時に関与すること  
  
・専門家の関与、トレーニングと経験の要件、関連する業界の専門知識を含む適切な知識にアクセスすること  
  
・適切なプロフェッショナルジャッジメントを行使して、監査中に取得されたすべての監査証拠を評価すること  
  
・エンゲージメントチームの継続的なメンタリング、監視、およびレビュー  
  
一貫した監査方法論とツール  
  
KPMGは、標準とツールを完全かつ最新の状態に保つために、重要なリソースを投入しています。グローバルサービスセンター（GSC）によって開発されたKPMGの監査方法論は、国際監査基準（ISAs）の要件に基づいています。KPMGの監査方法論は、KPMG監査マニュアル（KAM）に記載されており、KPMG Internationalは、監査品質を高めると考えているISAsを超える追加要件を含んでいます。この方法論は、監査手順の実行において適切なプロフェッショナルスケプティシズムを強調し、独立を含む関連する倫理的要件に従うことを求めています。監査方法論、ガイダンス、およびツールの改善は、内部および外部の監査品質結果、監査の焦点となる新興監査分野、および標準に準拠するために定期的に行われます。主なトピックには、会計上の見積もり、内部統制、収益認識、グループ監査、監査サンプリング、およびリスク評価が含まれます。  
  
KPMGメンバーファームは、追加の専門的、法的、または規制上の要件を満たすために、ローカルな要件と/またはKAMのガイダンスを追加することができます。  
  
KAMには、重大な誤記率のリスクを識別し、評価するための手順、およびそれらに対応するための手順などの例とガイダンスが含まれています。  
  
KPMGの監査方法論は、適切な場合には専門家の使用を奨励し、また、特定の基準が満たされた場合または監査チームが適切または必要であると判断した場合に、関連する専門家をコア監査エンゲージメントチームに関与させることを要求しています。  
  
KAMに規定された方針および手順は、すべてのKPMGメンバーファーム、機能、および人員に適用されるグローバルQ＆RMマニュアルに規定された方針および手順を補完するものです。  
  
KPMGの監査ワークフローは、eAudITを介して有効化され、アクティビティベースのワークフローと電子監査ファイルです。eAudITは、75,000人以上の専門家が高品質で一貫した監査を実行することができるKPMGの監査文書化ワークフローです。eAudITには、KPMGの監査方法論、ガイダンス、業界知識、および監査作業を実行し文書化するために必要なツールが統合されています。  
  
eAudITは、プロフェッショナルスタンダードおよび適用される法的および規制要件に従い、監査対象のエンティティの性質に応じて、関連する要件とガイダンスを提示することができます。eAudITは、監査ガイダンス、プロフェッショナルスタンダード、および文書化テンプレートに直接アクセスできます。  
  
KPMGの監査方法論（KAM）およびワークフローツール（eAudIT）を改訂および強化するための重要な投資が進行中であり、2018年にパイロット導入され、2019年にグローバルに初めて展開され、2020年から全面展開が予定されているKPMG Clara Workflowの展開が行われています。  
  
KPMG Clara、KPMG Clara Workflow、および監査データ＆アナリティクス（D＆A）  
  
KPMG Internationalは、監査品質を改善し、監査の実行における一貫性を高め、メンバーファームとグローバルな監査のモニタリングを強化するために、重要な投資を行っています。  
  
KPMG Clara  
  
2017年、KPMG Internationalは、KPMGのスマート監査プラットフォームであるKPMG Claraをグローバルに展開し始め、KPMGの監査データ＆アナリティクス（D＆A）能力、革新的な新しい技術、コラボレーション機能、および監査ワークフローを統合しました。  
  
これは、KPMGが以下を目指すことを示しています。  
  
・新しい、現代的なテクノロジーによるインターフェースとコラボレーション機能を通じて、私たちの人々とクライアントのために監査実行を変革すること  
  
・監査をデジタル化し、新しいD＆Aルーチンを提供するための必要な能力を統合すること  
  
・強化されたおよび再設計されたワークフローを可能にすること  
  
・エンゲージメントチームおよびメンバーファームが使用するためのエンゲージメントレベルおよびエンゲージメントポートフォリオ全体でのモニタリング能力の開発  
  
・メンバーファームの品質管理システムの効果をグローバルリーダーシップがモニタリングするためのサポート  
  
・メンバーファームのカスタマイズとスケール、および将来の能力を可能にする拡張可能な監査プラットフォームを開発すること。  
  
KPMG Clara Workflow

2017年にKPMG Claraを発表し、KPMG InternationalはKPMG監査チームがKPMG監査を実行し文書化するために使用する新しいワークフローツールを作成しています。これは直感的で使いやすく、現代的なものになります。新しいシステムは、論理的なシーケンスで一連のステップを実行し、情報とビジュアルの表示がより明確になり、必要に応じて知識とガイダンスが利用可能で、高度なD&Aの機能が組み込まれます。ワークフローと方法論は、監査の規模と複雑さに合わせて要件を調整することもできます。このグローバルなプロジェクトは、KPMGのプロフェッショナルによる監査の実行を大幅に刷新し再設計し、監査品質の改善を推進することになります。  
  
監査データと分析（D&A）  
  
D&Aにより強化されたKPMG監査：  
  
より高いリスクのトランザクションにフォーカスし、データ集団のより深い理解を提供することで監査品質を向上させます。  
  
KPMGのIT環境内と転送中のデータへのアクセスを制限するため、安全です。  
  
詳細な分析を容易にし、外れ値や異常の原因および根本原因を明らかにすることで透明性を提供し、高いリスクのトランザクションとプロセス領域の可視性を高めます。  
  
D&Aツールとルーチンは、監査に基づく原則と専門基準に基づいて構築されており、監査人の責任を免除するものではありません。  
  
独立性、誠実さ、倫理、客観性  
  
概要  
  
監査人の独立性は、国際的な専門基準および規制要件の基盤です。  
  
KPMG Internationalは、IESBA倫理規範の要件を取り入れた独立性の方針と手順を詳細に定めています。これらはKPMGのGlobal Q&RMマニュアルに記載されています。自動ツールにより、これらの要件の遵守が容易になっています。  
  
これらの方針は、JICPAによって発行された公認会計士法および倫理規範に準拠するために他のプロセスで補完されます。  
  
これらの方針とプロセスは、事務所の独立性、個人の独立性、事務所の財務関係、退職後の関係、パートナーのローテーション、監査および非監査サービスの承認などの分野をカバーしています。  
  
KPMG Internationalには、グローバル独立性グループの責任者がおり、専門家の核心チームがサポートして、KPMGメンバーファームで堅牢で一貫した独立性の方針と手順が定められ、これらの要件を遵守するためのツールが利用可能であることを確認しています。  
  
KPMG AZSAには、倫理および独立性のパートナー（EIP）が指定されており、倫理および独立性の方針と手順の指示と実行に主たる責任を負っています。  
  
年間中にKPMG Internationalの倫理および独立性方針に対する修正は、定期的な品質およびリスクコミュニケーションに含まれています。  
  
メンバーファームは、電子メールのアラートで指定された変更を実施する必要があり、これは内部監視プログラムを通じてチェックされます。  
  
KPMG AZSAのスタッフは、内部規則で定義された特定の事項についてEIPと協議することが義務付けられています。事実と状況に応じて、グローバル独立性グループとの協議も必要になる場合があります。  
  
個人の財務的独立性  
  
KPMG Internationalの方針により、KPMGメンバーファームおよびKPMGの専門家は、KPMGメンバーファームの監査クライアント、その経営陣、取締役および主要株主による禁止された金融的利益および関係から自由である必要があります。方針は、監査クライアントの証券所有に関するIESBA倫理規範の制限を、すべてのパートナーおよび当社のマネージャー以上のすべてのスタッフに対して、すべてのメンバーファームの監査クライアントに対して適用されるように拡大します。  
  
KPMG AZSAのスタッフは、独立性の目的に制限された個人的な財務、ビジネス、または家族の関心事項がないことを確認するために、適切な問い合わせを行い、他の適切な行動を継続的に行う責任があります。  
  
他のKPMGメンバーファームと同様に、私たちはウェブベースの独立性コンプライアンスシステム（KICS）を使用して、私たちの専門家が個人的な独立性投資方針に従うことを支援しています。このシステムには、公開されている投資の在庫が含まれています。  
  
パートナーおよびすべてのマネージャーグレード以上の顧客対応スタッフは、投資に参加する前にKICSシステムを使用して、許可されているかどうかを特定する必要があります。彼らはまた、すべての投資をKICSに記録する必要があり、KICSは、後で制限された投資があった場合に自動的に通知します。新たに制限された投資は、通知後5営業日以内に処分する必要があります。  
  
KPMGは、個人の独立性のコンプライアンス監査プログラムの一部として、パートナーおよびマネージャーのコンプライアンスを監視しています。  
  
雇用関係  
  
機能にかかわらず、監査クライアントにサービスを提供するすべての専門家は、その監査クライアントとの雇用交渉に入る意向がある場合は、EIP、監査クライアントのエンゲージメントパートナー、および人事部門に通知する必要があります。

監査チームの元メンバーまたはKPMG AZSAの元パートナーは、KPMG AZSAとの重要な関係、KPMG AZSAにとって重要な支払い、KPMG AZSAの事業およびプロフェッショナル活動への参加を中止するなど、KPMG AZSAとのすべての重要な関係を解消しなければ、特定の役割で監査クライアントに参加することはできません。  
  
公共利益企業である監査クライアントの重要な監査パートナーや上級職員は、一定期間（「クーリングオフ期間」と呼ばれる）一定の役割でそのクライアントに参加することを制限されています。  
  
KPMG AZSAのプロフェッショナルが監査クライアントに雇用される場合の要件について、私たちはコミュニケーションをとり、監視を行っています。  
  
ファームの財務的独立性  
  
KPMGメンバーファームは、監査クライアント、その経営陣、取締役、重要なオーナーとの禁止された利益や禁止された関係から自由でなければなりません。  
  
他のKPMGメンバーファームと同様に、KPMG AZSAは、独立性追跡システムであるKICSを使用して、自社の投資（たとえば年金・退職金制度や資金運用活動を通じて行われたもの）を記録します。この記録は、私たちのコンプライアンスプロセスを通じて監視されます。  
  
ビジネス関係/サプライヤー  
  
KPMG AZSAは、IESBA倫理基準、日本公認会計士法、日本公認会計士協会が発行した倫理規定、SEC、米国PCAOBルール要件に従って、ビジネス関係が維持されるように設計されたポリシーと手順を導入しています。  
  
独立性クリアランスプロセス  
  
KPMG AZSAは、公共利益企業である見込みのある監査クライアントに関連する独立性に対する脅威を特定し、評価するための特定の手順（「独立性クリアランスプロセス」とも呼ばれる）に従って、これらの企業の監査委託を受ける前に完了する必要があります。  
  
独立性トレーニングと確認  
  
KPMG AZSAのすべてのパートナー、クライアントサービスプロフェッショナル、および一部の他の個人は、KPMG AZSAに参加する際とその後毎年、自分たちの等級と機能に適した独立性トレーニングを受けなければなりません。このトレーニングを受ける必要がある新しい人員は、KPMG AZSAに参加してから30日以内に行わなければなりません。また、監査クライアント、関連会社、または関連企業を含む、監査クライアントの連鎖命令のメンバーになる前に受けなければなりません。  
  
また、私たちは全員に対して、グローバル行動規範、KPMG AZSA行動規範、および倫理的行動に関するトレーニングを、2年ごとに提供しています。新しい人員は、KPMG AZSAに参加してから3か月以内にこのトレーニングを受ける必要があります。  
  
KPMGの全員が、雇用を受け入れた後、適用される倫理基準と独立性ルールとポリシーに準拠し、これらを守ることを確認する必要があります。  
  
その後、KPMGの全員は、年次確認書に署名することで、確認書の期間中に適用される倫理基準と独立性ポリシーに従っていたこと、および適用される行動規範を理解し、これに従っていたことを証明する必要があります。この確認書は、個人の独立性ポリシーへの準拠と理解を証明するために使用されます。  
  
パートナーのローテーション  
  
私たちのローテーションポリシーは、公認会計士法およびJICPA倫理規定に準拠しており、より厳しい地元の適用可能なローテーション要件にも対応しています。  
  
KPMG AZSAのパートナーは、関連法律、規制、独立性ルール、KPMGインターナショナルの方針に従って、監査クライアントに対する一定の役割を提供する年数に制限があります。その後、「タイムアウト期間」と呼ばれる期間が設けられ、その期間中、これらのパートナーは監査に参加したり、監査の品質管理を提供したり、技術的または業界固有の問題について監査チームまたはクライアントと相談したり、監査の結果に影響を与えたりすることはできません。  
  
KPMG AZSAは、監査委託リーダーのローテーション（およびローテーション要件がある場合の主要な役割、たとえば主要監査パートナーやEQCレビュアーなど）を監視し、パートナーの必要な能力と能力を持つ割り当てを可能にする移行計画を策定します。パートナーのローテーションの監視は、コンプライアンステストの対象となります。  
  
非監査サービス  
  
私たちは、監査クライアントに提供できるサービスの範囲に関連する、IESBA原則および適用法令および規制に一致するポリシーを持っています。

KPMG AZSA personnel must not engage in any activity that involves insider trading, or that may be perceived to involve insider trading, in relation to a client or any other entity. This includes, but is not limited to, trading in securities, or providing advice or recommendations to others, based on material non-public information.   
  
All KPMG member firms must have procedures in place to prevent insider trading. KPMG AZSA personnel must comply with all such procedures, as well as any additional requirements that may be imposed by local laws and regulations. Failure to comply with these requirements may result in disciplinary action.

インサイダー取引の防止  
  
KPMG AZSAは、証券市場での情報の信頼性を確立することを目的とした内部規則や手順を備えており、監査対象企業の証券の保有や取引を禁止し、日本および他の管轄区域における上場企業への個人投資を監視するウェブベースの独立性追跡システムに登録することを求めています。全てのパートナーや従業員は、適切なトレーニングを通じてインサイダー取引ポリシーを理解し、適用される政策に準拠していることを年次で確認しています。  
  
適切に資格を持ち、適性のある人材の採用、育成、配置  
  
品質を確保するためには、我々のプロフェッショナルが最高品質の監査を提供するために必要な適切なスキルと経験、情熱と目的を持っていることが重要です。これには、プロフェッショナルの適切な採用、育成、昇進、人材の配置が必要です。KPMGパフォーマンス開発アプローチは、KPMGの価値観にリンクされ、個人的にも集団的にも成功するために必要なことを明確にするよう設計されています。監査品質を確保するためには、KPMG Clara Workflowの導入と関連する更新されたKPMG監査方法論を支援するために進行中のトレーニング、計画、および開発に盛り込まれたプロセスが必要です。  
  
採用  
  
KPMG AZSAは、人々が自分自身の可能性を最大限に発揮し、誇りを持ってベストを尽くすことができる環境を作り出すことにより、雇用主としての選択肢になることを目指しています。  
  
すべての候補者は、応募書類の審査、コンピテンシーベースの面接、心理学的および能力テストなど、様々な選択プロセスに従って雇用されます。  
  
KPMG AZSAは、候補者の前の会社/雇用主の機密情報を受け入れません。上級職（パートナー、ディレクター）の場合、EIPによる正式な独立性に関する議論が行われます。  
  
パートナー採用プロセスは、パートナーズ・ミーティングおよびシニア・エグゼクティブ・ボードを含む適切なリーダーシップのメンバーを巻き込み、厳格かつ綿密に行われます。パートナー採用の基準は、専門性と誠実さ、品質、雇用主としての選択肢へのコミットメントに一貫しています。  
  
個人的な発展  
  
品質のある仕事を行うためには、技術的なスキルに加え、ビジネスとリーダーシップのスキルが必要です。  
  
監査に関しては、プロフェッショナルが監査のキャリアの基盤となるスキル、行動、個人的資質を開発する機会が提供されます。個人の効果を高め、技術、リーダーシップ、ビジネススキルを開発するためのコースが用意されています。  
  
さらに、各パートナーや従業員に対して、監査全体においてプロフェッショナルな懐疑心を高め、保持し、発揮することの重要性を確認するトレーニングセッションが継続的に行われ、詐欺に関する指導やトレーニングの適切な機会が提供されます。  
  
KPMG AZSAのプロフェッショナルは、コーチングやメンタリングの機会、ストレッチ・アサインメント、国内およびグローバルな移動の機会を通じて、高いパフォーマンスを発揮するために開発されています。  
  
包括的かつ多様なプログラム  
  
KPMG AZSAは包括的な文化を育成するために努力しています。包括的であることは、最も広範なスキル、経験、視点を持つ成功したチームを結集することを可能にします。  
  
我々は、相互の違いを尊重し、最大限に活用しながら、多様な人格を持つパートナーや従業員が、「高品質のサービスを提供することによって監査クライアントや社会に貢献する」という共通の目標に向けて高いパフォーマンスを発揮することを奨励しています。  
  
KPMG AZSAは、より多様で柔軟な働き方の環境を確立するために、さまざまなアプローチを採用しています。具体的な取り組みには、グローバルなマインドを持つ人材の育成、女性の就業促進、出産、育児、介護との両立を支援すること、障がい者の雇用を促進すること、多様性を受け入れ、奨励する企業文化を創造すること、テレワークの導入、オフィスの働き方を一般的に変えることが含まれます。  
  
評価プロセス、品質、コンプライアンスメトリックを含む  
  
KPMG AZSAのプロフェッショナル、パートナーを含め、年次目標設定およびパフォーマンスレビューを実施しています。各プロフェッショナルは、合意された目標、リーダーシップのコンピテンシー、技術的能力、市場知識に基づいて評価されます。継続的な改善の文化が推奨され、上級および下級の同僚、同僚からのフォーマルおよび非フォーマルなフィードバックを促進することで、フィードバックが得られます。  
  
KPMG AZSAは、品質およびコンプライアンスのインシデントを監視し、パートナー、ディレクター、マネージャーの昇進、評価、報酬全体を評価するための品質メトリックを維持しています。  
  
パートナーは、主要な品質およびコンプライアンスのメトリックで評価されます。  
  
これらの評価は、パフォーマンスマネージャーやパートナーによって実施され、そのパフォーマンスを評価し、パフォーマンスレーティングを提案する立場にある人々によって行われます。KPMG AZSAのポリシーは、監査パートナーが監査クライアントに非監査サービスを販売することに成功した場合に評価されたり、報酬が支払われたりすることを禁止しています。  
  
報酬

報酬  
  
当社は、明確でシンプルな補償および昇進方針を持ち、パートナーには主要な監査品質およびコンプライアンス指標の達成を含むパフォーマンスレビュープロセスに関連しています。これにより、パートナーや従業員が自分に求められることと、その見返りを知ることができます。  
  
報酬の決定は、個人的および組織的（メンバーファーム）なパフォーマンスを考慮して行われます。人々が自分のパフォーマンスが報酬に反映されたと感じる程度は、GPSによって測定され、それに基づいて行動計画が策定されます。  
  
昇進  
  
パフォーマンス評価の結果は、パートナーやスタッフの昇進および報酬に直接影響し、場合によってはKPMGとの継続的な関係にも影響を与えます。  
  
パートナーの任命  
  
KPMG AZSAへのパートナーの任命プロセスは、パートナーズミーティングやシニアエグゼクティブボードなどの適切なリーダーのメンバーを含む厳格で徹底的なものです。  
  
KPMG AZSAパートナーへの任命基準は、プロフェッショナリズムと誠実さ、品質、雇用者選択の取り組みに一致しています。これらは、KPMGの行動能力に強く結びついており、一貫した原則に基づいています。  
  
プロフェッショナルの割り当て  
  
KPMG AZSAには、スキルセット、関連するプロフェッショナルおよび業界経験、および割り当てまたはエンゲージメントの性質に基づいて、エンゲージメントパートナーおよびその他のプロフェッショナルを特定のエンゲージメントに割り当てるための手順があります。  
  
機能担当者は、パートナーの経験と容量に基づいて、年次パートナーポートフォリオレビューを行い、エンゲージメントの規模、複雑さ、リスクプロファイル、および提供されるサポートのタイプ（エンゲージメントチームの構成および専門家の関与）を考慮してエンゲージメントの実行を評価します。  
  
監査エンゲージメントパートナーは、自社または他のKPMGメンバーファームの専門家を関与することを含め、KAM、専門基準、および適用法律および規制要件に従って監査エンゲージメントを実行するための適切な能力、トレーニング、および能力を持つエンゲージメントチームを持っていることを要求されます。  
  
エンゲージメントチーム全体に期待される適切な能力と能力を検討する際、エンゲージメントパートナーの検討事項には、以下が含まれます。  
  
- 適切なトレーニングと参加を通じた同様の性質および複雑さの監査エンゲージメントに対する理解。  
- 専門基準および法的および規制要件の理解。  
- 適切な技術的スキル、特に関連する情報技術と会計または監査の専門分野に関連するスキル。  
- クライアントが運営する関連業界の知識。  
- 専門判断を適用する能力。  
- KPMG AZSAの品質管理ポリシーおよび手順の理解。  
- QPRの結果および規制検査の結果。  
- 人々からの洞察（GPS）。  
  
人々からの洞察-社員調査（GPS）  
  
KPMGジャパンでは、2年ごとに、KPMGで働く全ての人々が独立したGPSに参加し、KPMGでの働き方に関する彼らの認識を共有するよう招待されています。  
  
GPSは、従業員エンゲージメント指数（EEI）を通じて人々のエンゲージメント全体を測定し、エンゲージメントを促進するための強みや機会についての洞察を提供します。調査は、エリア、グレード、役割、性別別に分析することができ、追加の洞察を提供します。従業員エンゲージメントに影響を与えると考えられるカテゴリーの状況に関する追加の洞察が提供されます。  
  
調査はまた、KPMG AZSAのリーダーシップおよびKPMGグローバルリーダーシップに、監査品質、KPMGバリューの維持、従業員およびパートナーの品質、リーダーシップ、およびトップトーンに関する洞察を提供します。  
  
KPMG AZSAはGPSに参加し、結果をモニタリングし、調査の結果に対して適切な対応を行います。これには、監査品質およびトップトーンを含むGPSの結果のモニタリングが含まれます。  
  
GPSの結果は、KPMGネットワークで集計され、年次グローバルボードに報告され、適切な追跡措置が取られます。  
  
技術的優秀さと品質サービスの提供へのコミットメント  
  
すべてのKPMG AZSAのプロフェッショナルには、必要な技術トレーニングとサポートが提供されます。これには、監査、報告、およびリスク管理に関する広範な経験を持つシニアプロフェッショナルで構成された専門家のリソースまたは相談を提供するプロフェッショナルプラクティス部門へのアクセスが含まれます。  
  
適切なリソースがKPMG AZSA内にない場合、他のKPMGメンバーファームの高度に熟練したKPMGプロフェッショナルネットワークにアクセスが提供されます。  
  
同時に、監査ポリシーは、プロフェッショナルが割り当てられたエンゲージメントに必要な知識と経験を持っていることを要求しています。  
  
ライフタイムラーニング戦略

終身学習戦略  
  
上記で議論された個人的な発展に加えて、私たちの終身学習戦略は、技術的な能力を維持し、関連する規制やプロフェッショナル開発要件を遵守することを要求するポリシーに基づいています。  
  
フォーマルトレーニング  
  
グローバル、地域、KPMG AZSAレベルの監査学習と開発のステアリンググループが年次トレーニングの優先順位を開発し、クラスルーム、デジタル学習、パフォーマンスサポートのブレンドを使用して、監査人の仕事を支援します。  
  
監査学習と開発チームは、適切であれば、GSC、ISG、およびメンバーファームのプロフェッショナル実践部門（DPP）の主題専門家やリーダーと協力して、トレーニングが最高品質であり、仕事のパフォーマンスに関連しており、適時に提供されるようにします。  
  
IFRSおよび米国GAAPの契約に対するライセンスおよび義務要件  
  
ライセンス  
  
KPMG AZSAのすべてのプロフェッショナルは、実務地域での継続的なプロフェッショナル開発（CPD）要件を満たし、適用されるプロフェッショナルライセンスの規則に従う必要があります。  
  
ライセンス要件の遵守を容易にするために、ポリシーと手順が設計されています。  
  
私たちは、IFRSが主要な財務報告フレームワークでない国でIFRSの契約を取り組むパートナー、マネージャー、およびEQCレビュアーに特定の要件を設けています。米国外で行われた契約にも同様のポリシーが適用され、米国監査基準に従って作成された財務諸表または財務情報に報告し、エンティティの財務報告内部統制の有効性について報告する場合も同様です。  
  
これらには、パートナー、マネージャー、およびEQCレビュアーが関連するトレーニングを完了しており、契約チーム全体が契約を遂行するために十分な経験を有しているか、不足点に対処するための適切な保障策を実施している必要があります。  
  
専門ネットワークへのアクセス  
  
KPMG AZSAの契約チームは、地元のKPMGスペシャリストおよび他のKPMGメンバーファームのスペシャリストにアクセスできます。  
  
監査チームのメンバーであり、監査契約における専門家の役割を全般的に担当する専門家は、役割を適切に果たすための能力、能力、客観性を備えています。これらの専門家には監査の概念に関するトレーニングが提供されます。  
  
監査契約プロセスの受け入れと継続の一部として、専門家（情報技術、税金、精算、フォレンジック、評価など）を特定の監査契約に割り当てる必要があるかどうかを検討します。  
  
相談の文化  
  
KPMGは、メンバーファームチームが意思決定プロセス全体でサポートされる強力な相談の文化を奨励し、監査品質に基本的な貢献者です。  
  
KPMG AZSAは、相談が強みとして認識され、個人が困難または論争のある問題について相談することを奨励する文化を促進します。  
  
監査契約の専門家が困難または論争のある問題に対処するのを支援するために、重要な会計および監査問題の相談および文書化のためのプロトコルが確立されています。これらのプロトコルには、詐欺による重大な誤記の兆候が特定された場合に相談するためのポリシーと手順が含まれます。  
  
私たちのプロフェッショナル実践リソースを通じて、監査契約プロフェッショナルに適切な相談支援が提供されます。  
  
技術監査および会計サポートは、GSCおよびISG、および米国証券取引委員会外国登録者のUS Capital Markets Groupを通じて、すべてのメンバーファームおよびそのプロフェッショナルに利用可能です。  
  
グローバルサービスセンター（GSC）  
  
GSCのミッションは、協業、革新、および技術を通じて、KPMGのグローバルネットワークの監査実践の成功を促進することです。 GSCは、各地域に1つずつの3つのグローバル拠点を持ち、世界中から監査、IT、データサイエンス、数学、統計などのバックグラウンドを持つ専門家が集まり、多様な経験と革新的な思考をもたらし、KPMGの監査能力を更に進化させるための技術ベースのツールを開発、維持、および展開します。  
  
国際基準グループ（ISG）  
  
ISGは、世界中からの地理的代表を持つグローバルIFRSおよびISAトピックチームと協力して、メンバーファーム間でのIFRSおよび監査要件の解釈の一貫性を促進し、新興問題を特定し、グローバルなガイダンスを適時に開発します。  
  
GSCおよびISGおよびその活動の詳細については、KPMG International Transparency Reportを参照してください。  
  
メンバーファームプロフェッショナル実践リソース

弊社の専門プラクティスリソース（Department of Professional PracticeまたはDPPとして知られています）を通じて、監査・技術会計問題に関する適切なコンサルテーションサポートが監査エンゲージメント専門家に提供されます。DPPは、チーム内またはEQCレビュアーとの間で意見の相違がある場合には、エンゲージメントチームを支援します。未解決の相違点は、最終的な解決のために上級パートナーにエスカレーションする必要があります。また、必要に応じてISGもコンサルテーションに利用できます。  
  
KPMG Internationalのポリシーには、メンバーファームのDPPに対する最低限の要件が含まれています。  
  
ビジネス理解と業界知識の開発  
  
クオリティの重要な要素の1つは、クライアントのビジネスと業界についての詳細な理解を持っていることです。  
  
重要な産業については、関連する業界情報の開発を支援するために、グローバル監査セクターリーダーが任命され、KPMG監査ワークフローを通じて監査専門家に提供されます。   
  
この知識には、業界の監査手順の例やその他の情報（典型的なリスクや会計プロセスなど）が含まれます。さらに、特定の産業に関する一般的なビジネス情報や産業の概要も提供されます。  
  
効果的かつ効率的な監査の実行  
  
監査の実行方法は、最終結果と同じくらい重要です。KPMG AZSAのスタッフは、効果的かつ効率的な監査の実行において、特定のキービヘイビアを示し、一定のポリシーと手順に従うことが期待されています。  
  
継続的な指導、監督、およびレビュー  
  
私たちは、スキルは時間とさまざまな経験を通じて開発されると理解しています。KPMG AZSAは、品質を損なうことなく、KPMGの専門家のスキルと能力の開発に投資し、コーチング文化をサポートするための継続的な学習環境を促進しています。  
  
エンゲージメントパートナーは、エンゲージメントマネージャーの支援を受けて、監査プロセス全体でコーチングと継続的な学習の文化を推進し、監査品質の継続的改善の文化を醸成する責任があります。  
  
私たちはまた、監査全体で監督とレビューを行うための方針と手順も持っています。監査中の継続的な指導、コーチング、および監督には、次のようなことが含まれます。  
  
・エンゲージメントパートナーの計画段階での参加  
  
・監査エンゲージメントの進捗状況の追跡  
  
・エンゲージメントチームの個々のメンバーの能力と能力の考慮、彼らが作業を実行するために十分な時間があるかどうか、彼らが自分たちの指示を理解しているかどうか、および作業が計画されたアプローチに従って実行されているかどうか  
  
・監査中に発生する重要な問題に対処するためにエンゲージメントチームメンバーを支援し、計画されたアプローチを適切に変更する  
  
・監査中により経験豊富なチームメンバーとの相談が必要な問題を特定する  
  
効果的な指導と監督の重要な部分は、実施された作業のタイムリーなレビューであり、重要な問題が迅速に特定され、議論され、対処されるようにすることです。  
  
KPMG AZSAには、詐欺リスクへの対応として、監査への対応を監督およびレビューするための方針と手順があります。  
  
タイムリーなエンゲージメント品質管理（EQC）レビュアー  
  
EQCレビュアーは、エンゲージメントチームとは独立しており、エンゲージメントチームが行ったより重要な意思決定や判断の客観的なレビュー、および財務諸表の適切性を評価するために適切な経験と知識を持っています。  
  
EQCレビュアーは、上場企業、高い公共的プロファイルを持つ非上場企業、該当する法律や規制によりEQCレビューが必要なエンゲージメント、およびリスクマネジメントパートナーまたは国の監査担当者が指定したその他のエンゲージメントの監査（中間財務情報の関連レビューを含む）に対して、EQCレビュアーを任命する必要があります。  
  
EQCレビューには、次のような内容が含まれます。  
  
・エンゲージメントチームが行った重要な判断に関連する選択された監査文書のレビュー  
  
・財務諸表および提案された監査報告書のレビュー  
  
・監査報告書の策定に至る結論の評価および提案された報告書が適切かどうかの検討  
  
監査報告書の解決は、最終的にエンゲージメントパートナーの責任ですが、EQCレビュアーは、監査が完了する前にすべての重要な問題が解決されたことを確認する必要があります。詐欺の可能性がある場合は、EQCレビュアーは、監査チームが行ったリスク評価、監査手順、および監査証拠の適切性を評価する必要があります。  
  
KPMG AZSAは、監査品質管理システムの基本的な方針を確立すること、効果的なレビューを促進するためのEQCレビューに関するガイダンスを発行すること、監査リスクに関する理解を得ること、EQCレビューにおける問題についてEQCレビュアーに問い合わせること、およびEQCレビューの現在の状況を監視することなど、EQCレビュアーの役割を強化し改善するために取り組んでいます。

シニアレビューボードは、客観的なレビューを行うために、適切な経験と知識を持つパートナーで構成されており、EQCレビュープロセスの状況を監視し、監査で行われた重要な判断を評価しています。  
  
報告  
  
日本の監査基準および関連する法律および規制によって、監査報告書の形式および内容が大部分決定されます。監査実施に基づいて、経験豊富なエンゲージメントパートナーがすべての監査意見を形成しています。  
  
エンゲージメントパートナーは、監査報告書の作成にあたり、DPPとの相談を通じて広範な報告ガイダンスおよび技術的サポートにアクセスすることができます。エンゲージメントパートナーは、監査報告書のユーザーに報告すべき重要な事項がある場合、監査報告書の修正または重要事項段落の追加を通じて報告する必要があり、シニアレビューボードの関与を要請する必要があります。  
  
洞察力のある、オープンで正直な双方向のコミュニケーション  
  
ガバナンスに責任を負う者との双方向のコミュニケーションは、監査品質の鍵であり、報告およびサービス提供の重要な側面です。  
  
KPMG AZSAでは、監査中に発生する問題について、ガバナンスに責任を負う者に報告し、彼らの意見を聴くことの重要性を強調しています。これは、報告書やプレゼンテーション、監査役会への出席、および適切な場合にはマネジメントや監査役会のメンバーとの継続的な議論の組み合わせによって達成されます。  
  
私たちは、会計方針、会計見積もり、財務諸表開示、財務報告システムの設計および運用上の重大な欠陥、監査中に発見された場合のコントロールなど、重要な会計プラクティスの適切性の評価を含む洞察力を提供し、修正されていない誤りを含む監査報告書の修正または重要事項段落の追加を通じて、ユーザーに報告します。  
  
KPMG Institute  
  
KPMGのグローバルIFRS研究所は、多くの企業に影響を与える会計および監査に関する最新情報を提供し、KPMGのメンバーファームおよび外部者を支援しています。  
  
たとえば、KPMG GlobalとKPMG AZSAのウェブサイトで提供されるIFRS Institute（https://home.kpmg/xx/en/home/services/audit/international-financial-reporting-standards.html）は、情報に簡単にアクセスできます。  
  
前任者監査人と後任者監査人の間の通信  
  
私たちは、監査人の変更があった場合に前任者監査人と後任者監査人の間の通信に関する方針および手順を確立しています。これらの通信は、会社全体で監視されています。  
  
クライアントの機密保持、情報セキュリティ、およびデータプライバシー  
  
クライアントの機密保持の重要性は、グローバルおよびKPMG AZSA行動規範、トレーニング、およびKPMGの全職員が必要とされる年次誓約/確認手順など、さまざまな仕組みを通じて強調されています。  
  
私たちは、監査文書およびエンゲージメントに関連するその他の記録の保持期間に関するIESBAの要件およびその他の適用法、規格、および規制に従った、関連性、適切性、および効果的な運用のための形式的な文書保持方針を持っています。  
  
私たちは、広範な分野をカバーする情報セキュリティに関する明確なポリシーを持っています。個人情報保護法に準拠したデータプライバシーポリシーがあり、全てのKPMG AZSAのスタッフに対して関連トレーニングが必要です。  
  
リスクに関連する情報  
  
私たちは、リスク評価に関連する情報を管理するシステムを持っており、重要な監査上の問題、フラウドリスクを含むものが、エンゲージメントパートナーの変更があった場合に後任のエンゲージメントパートナーに伝えられるようになっています。  
  
継続的改善への取り組み  
  
KPMGは、監査の品質、一貫性、効率性を継続的に改善することに取り組んでいます。統合品質モニタリングおよびコンプライアンスプログラムにより、メンバーファームは個別の監査エンゲージメントおよびKPMG品質管理システムの改善アクションプランを開発、実施、報告することができます。  
  
KPMG Internationalの統合品質および監査プログラムには、Quality Performance Review（QPR）プログラム、Risk Compliance Program（RCP）プログラム、およびGlobal Compliance Review（GCR）プログラムが含まれます。  
  
品質モニタリングおよびコンプライアンスプログラムは、テストおよび報告の性質および範囲を含め、すべてのメンバーファームでグローバルに管理され、一貫性があります。KPMG AZSAは、内部監査プログラムの結果を外部検査プログラムの結果と比較し、適切なアクションを取ります。  
  
内部モニタリングおよびコンプライアンスプログラム  
  
私たちのモニタリングプログラムは、適用可能な基準、法律および規制、およびKPMG Internationalの方針および手順に準拠したエンゲージメントのパフォーマンスと、KPMG AZSAがKPMG Internationalの方針および手順に準拠しているかどうか、および主要な品質管理方針および手順の関連性、適切性、および効果的な運用を評価します。  
  
統合監視プログラムの結果および教訓は内部的に伝えられ、プログラム全体の結果および教訓は地域およびグローバルレベルで考慮され、適切なアクションが取られます。

当社の内部監視プログラムも、当社の品質管理システムが適切に設計・効果的に実施され、かつ効果的に運用されているかどうかを評価するうえで貢献しています。  
  
KPMGインターナショナルが開発・運営する2つの検査プログラム、QPRおよびRCPが、監査およびアドバイザリー機能全体で毎年実施されます。また、すべてのメンバーファームは、クロスファンクショナルなGCRプログラムによって少なくとも3年ごとに対象となります。  
  
QPR、RCP、およびGCRへの参加は、KPMGネットワークの継続的なメンバーシップの条件です。  
  
さらに、当社の品質管理システムに従い、次のプロセスが監査対応の不正リスクを監視するために実行されていることを確認しています。  
  
・クライアントおよび契約の受け入れと継続  
・指導とトレーニング  
・監査プロセス（監督とレビュー、内外からの情報に対する対応、相談、適時のEQCレビュアーおよびパートナーローテーション）  
・前任監査人と後任監査人の間のコミュニケーション  
  
監査品質パフォーマンスレビュー（QPR）  
  
QPRプログラムは、契約レベルのパフォーマンスを評価し、品質を向上させる機会を特定します。 各契約責任者は、3年サイクルで少なくとも1回はレビューされます。 リスクベースのアプローチが使用されています。  
  
KPMG AZSAは、KPMGインターナショナルのQPR指示に従って、年次QPRプログラムを実施しています。レビューはKPMG AZSAレベルで実施され、地域およびグローバルで監視されています。メンバーファームの監査QPRレビューは、メンバーファームから独立したシニアエクスペリエンスリードレビュアーによって監督されています。  
  
（レビュアーの選択、準備、およびプロセス）  
  
レビュアーの選択には厳格な基準があります。レビューチームおよびプロセスを監督する他の人々には、監査監督規制機関で特定された懸念事項に焦点を当てたトレーニングが提供され、外部レビュアーと同様に厳格である必要があります。  
  
（監査QPRからの評価）  
  
監査対象の評価とメンバーファームの監査実践の評価には一貫した基準が使用されます。監査対象は、「合格」「改善必要」「不合格」のいずれかと評価されます。  
  
（報告）  
  
QPRプログラムからの調査結果は、書面によるコミュニケーション、内部トレーニングツール、定期的なパートナー、マネージャー、およびスタッフ会議を通じてメンバーファームの専門家に伝えられます。これらの領域は、継続的な改善の程度を測定するために後続の検査プログラムでも強調されます。  
  
クロスボーダー契約（「改善必要」と「不合格」と定義される）の対応の少なくとも1つの指導監査パートナーに評価が通知されます。また、親会社/本社の主要な監査契約責任者には、QPR中に品質に関する重要な問題が特定されたメンバーファームによって、そのクライアントグループの子会社/関連会社が監査された場合に通知されます。  
  
リスクコンプライアンスプログラム（RCP）  
  
KPMGインターナショナルは、すべてのメンバーファームに適用される品質管理ポリシーとプロセスを開発および維持しています。これらのポリシー、プロセス、および関連手順には、ISQC 1の要件が含まれます。  
  
年次RCP中、当社は品質管理および手順の文書化、関連のコンプライアンステスト、および例外、アクションプラン、および結論の報告を含む堅牢な評価プログラムを実施しています。  
  
RCPの目的は、以下のとおりです。  
  
・プロフェッショナルサービスの提供に関連する主要な法的および規制上の要件に対するグローバル品質およびリスク管理のポリシーに準拠するKPMG AZSAの品質管理システムのコンプライアンスの範囲を監視、文書化、評価すること。  
・関連するプロフェッショナルスタンダードおよび適用される法的および規制上の要件に準拠することがKPMG AZSAおよびその人員のコンプライアンスを評価するための基盤を提供すること。  
  
欠陥が特定された場合、適切なアクションプランを策定し、各アクションアイテムの状況を監視する必要があります。  
  
グローバルコンプライアンスレビュープログラム（GCR）  
  
各メンバーファームは、少なくとも3年サイクルで、メンバーファームとは独立したKPMGインターナショナルのGCRチームによるGCRを受けます。  
  
レビューを実施するGCRチームは、KPMGメンバーファームとは独立し、グローバル品質およびリスク管理ポリシーについて客観的かつ知識豊富です。 GCRは、次の点についての独立した評価を提供します。  
  
・メンバーファームの品質およびリスク管理への取り組み（トーン・アット・ザ・トップ）、およびその全体的な構造、ガバナンス、および資金調達がこの取り組みをサポートおよび強化している程度。  
・主要なKPMGポリシーおよび手順に対するメンバーファームのコンプライアンス。  
・メンバーファームが自社のコンプライアンスプログラム（RCP）を実施する堅牢さ。

私たちは、すべてのGCR調査の結果に対応するためのアクションプランを策定し、GCRチームと合意しています。私たちは、アクションプランの進捗状況をGCR中央チームに監視してもらい、結果はグローバル品質・リスク管理ステアリンググループ（GQ＆RMSG）および必要に応じて適切なKPMGインターナショナル及び地域のリーダーシップに報告しています。これにより、メンバーファームが適時の是正措置を行うことができるようになっています。  
  
原因分析（RCA）  
  
KPMG AZSAは、継続的改善の一環として、監査品質の問題を特定し、再発防止のために対策を講じるためにRCAを実施しています。メンバーファームは、RCAを実施し、特定された監査品質の問題に適切な是正計画を策定する責任があります。 KPMG AZSAの監査責任者は、RCAの結果に基づいてアクションプランを策定および実施する責任があり、解決策の所有者を特定します。リスクマネジメントパートナーは、その実施を監視します。  
  
改善のための推奨事項  
  
グローバル品質管理専門委員会（GAQSC）およびGQ＆RMSGを通じて、KPMGインターナショナルは、品質モニタリングプログラムの結果をレビューし、メンバーファームのルート原因およびアクションプランを分析し、必要に応じて追加のグローバルアクションを策定しています。これまでに、KPMGインターナショナルが策定したグローバル改善計画は、KPMGネットワーク全体の文化や行動を変革し、KPMGメンバーファーム内の一貫したエンゲージメントチームのパフォーマンスを推進することを目的としています。改善計画は、グローバルなトレーニング、ツール、ガイダンスの開発を通じて実施され、一貫性を確保し、基礎的なことが正しく、ベストプラクティスがKPMGネットワーク全体で共有されるようにします。  
  
外部フィードバックと対話  
  
規制当局  
  
公認会計士・監査審査委員会（CPAAOB）は、監査法人協会（JICPA）による品質管理レビューの公正性、中立性、効果的性を確認するために、監査品質管理レビューを監視しています。CPAAOBは、JICPAによる品質管理レビューの報告書をレビューし、必要に応じてJICPA、監査法人などの現地調査を実施します。国際的には、KPMGインターナショナルは、国際独立監査規制機関（IFIAR）と定期的に双方向のコミュニケーションを行い、ネットワーク全体での監査品質の課題とその対応策について議論しています。  
  
クライアントフィードバック  
  
私たちは、サービス提供におけるクライアントの満足度を監視するために積極的にフィードバックを求めています。私たちは、このフィードバックを取り入れ、エンゲージメントレベルおよびファームレベルの両方でダイナミックな変更を行い、クライアントのニーズに応えるよう努めています。